

保育園自己評価表

2022年度

園名 まあむキッズ大野北口新園

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある優しい子 ・自分で決めて自分でおこなえる子 <p>【達成度】</p> <p>〈思いやりのある優しい子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児は、愛着関係を築くことを大事にし、信頼感を育んだ。穏やかな気持ちで過ごすことで、周りにも優しい気持ちを持つことができた。 ・異年齢交流を持つ機会を大切に、優しくされ大事にされる経験することにより信頼感を築くことができた。 ・飼育、栽培を通し、命の大切さや成長の喜びを感じることができ、動植物を慈しむ心情を育てることにつながった。 <p>〈自分で決めて自分で行える子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃや遊びを自分で選べるよう場の工夫をしたことで、自分の意思で、遊びを決め、集中して遊びに取り組めるようになった。 ・遊びだけでなく、制作の材料を選んだり、劇で自分のやりたい役を選んだりするなど日常生活の中で自己決定する場面を増やしてきたことで、自分の意思を持てる子が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子、クラスの取り組みを年齢別会議や職員会議で共有し、担当以外の職員もその子の育ちに寄り添うようにした。 ・先輩、後輩関係なく教えたり教わったりと知識の共有をすることで、保育の幅を広げられた。他の保育者に手伝いを求める時は、遠慮なく声を上げることができ環境があり、助け合いができた。 ・トランシーバーを活用し、出先での情報共有をおこなったため、その情報を参考に、行先を変更するなど混雑や事故防止に配慮することができた。 ・給食時、アレルギー対応がある場合、声を掛け合い見落としがないようにした。 ・幼児クラスとして、3.4歳で活動する場面が多くなったが、両クラスでしっかり話し合い連携して進めていくことで、よい保育環境を作ることができた。 ・年齢や経験年数、勤務形態の異なる職員が仕事をしているが、どんな立場の人の意見にも耳を傾け、尊重しあう園になるよう努めた。施設長や主任が相談に乗ったり、少し先輩の先生が若い先生にアドバイスをしたりすることで連携を深め、保育の質の向上がはかれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や他の保育園、公園にいる親子には、進んで挨拶をするようにした。声をかけてくださる方も多かった。 ・地域の方が保育者にも声をかけてくださり。地域全体で子育てをしている空気を感じた。 ・栽培活動で育てる野菜の苗や、近場の遠足で食べるおやつなどは、地域のお店に買い物に行き、地域とつながることができた。今後も継続していきたい。 ・保育フェスでは、作品を通じて他園の方や保護者、見に来ていただいた地域の方たちと交流し、園の様子を発信したり、情報を共有したりしながら交流を深めることができた。 ・公園だけでなく地域のいろいろな施設や場所に散歩にでかけ、地域の様子やそこで働く人をみたり、自然に親しんだりした。 ・音遊びで園に来られた親子にすすんで声をかけ、楽しめる雰囲気づくりに務めた。